12月11日（木）　国語科特別講座

「書道に親しむ－書道家に学ぶ毛筆の極意」

去る12月11日（木）12時30分から、書道家 日比野 実先生をお迎えし、書道講座を開催しました。講座の定員35名は、結構早い段階で定員に達しました。

初めての試みであり、講座を開く当日まで進行と準備でさまざまな不安がありました。日比野先生がお弟子さんと来られ、いよいよ講座の開始。日比野先生の自己紹介と書道について、そして書道具の簡単な説明があり、太・中筆の二本のセットが手渡され、その他の用具や半紙等も準備ＯＫ。立志館二階の国語科の国語４の教室とのメディアスペースの間の戸が全開にされ、それぞれの書きたい手本を選んだ生徒の皆さんは、半紙と練習用の新聞紙に書き始めました。この数十枚のお手本も日比野先生が用意してくださいました。

二階一帯に墨の香が漂い、書道講座という雰囲気になりました。日比野先生から、基本的な打ち込みやはらい等の書き方を習っていたのですが、実際に筆を持って書くとなると全然違ったようです。最初、小学校以来久しぶりに筆を持ったという生徒たちは戸惑いがありましたが、日比野先生やお弟子さんの手助けもあり、一心不乱にお習字に取り組んでいました。普段の授業の時とは、また違う緊張感を持って取り組んでくれていました。手本があり、先生が傍らに付き、手直しや評価がすぐにしてもらえるからでしょうか、書き出しから比べると、何回も書いているうちに、本当にどんどん上達していくのが、側で見ている私たち国語科の教員にも伝わってきました。ほとんど私語が聞こえてこないのです。そうするうちに、それまで見学していた生徒たちも「私たちにも書かせてもらえませんか」と言いだし、書道講座への飛び入り参加も。

講座が始まって１時間半ほど経過して、日比野先生は生徒たちにそろそろ仕上げに入ることを指示され、別テーブルで生徒が書いた作品に朱を入れ出されたのです。生徒たちも真剣そのもの日比野先生の一筆一筆を注視し、名前の入れ方を教えてもらい、清書に取り組みました。どんどんと清書が仕上がり、前の黒板に清書作品が次々に張り出されました。日比野先生が書かれた、百人一首の「春過ぎて夏来にけらし 白妙の衣干すてふ天の香具山」の大作に取り組んだ３年生もいました。その作品も含め、黒板に張り出された作品は、最初の私たちの不安を払拭し、ただただ感心するものとなりました。２時間半が経過し、片付けの時間となり、日頃掃除もままならない生徒たちが指示通りに筆を洗い、墨池を洗いました。その時の生徒たちの顔には何かしら達成感が溢れていました。最後に閉会時に、日比野先生から、講座参加の生徒たちに、「あなたたちが、海外に行こうと思う時には、今日やった書道のような日本文化をしっかり身につけて、海外に赴いてほしい」という趣旨のお話がありました。これは本当に大切な指摘だと思いました。さまざまな面で好意的に講座開催にご協力していただきました、書家日比野 実先生に感謝いたします。

空
夢
美

創造
夢
理想
古都の初春
望
伝統
美
雄飛
平和教育
望
理想
空
張路
望
創造
太風生福寿
大空の光
四海太平
進
富士初夢